

秘湯の朝湯を楽しんだ後、ロビーでサービスのお味噌汁を頂きながら、山梨からいらしたという母娘連れの方から、諏訪に関する情報を手に入れました。早速予定が立ちました。旅行に関しては私が行きたいところに連れて行っていただくような塩梅になっています。

せっかくの横谷峡ですから、遊歩道を歩いて、「霧降の滝」を見て、爽やかさ満喫。山肌に巨石がへばりついているような細い山道は、大滝の手前で行き止まりになっているとのこと。さすがに「秘境・神秘の谷」と宿の案内にある通りです。私は一人歩きは寂しく、すぐに戻りました。



まずは近所の「バラクラ イングリッシュガーデン」。入口付近にアカシア、ライラック、ハマナスなど、無造作に咲き誇っています。薔薇は6月に咲くそうで、今はアリウム、ルピナスが咲いていました。庭園は散策する小径、休憩する東屋などが次々としつらえてあって、それぞれのスポットで英国らしい花々、グリーンを楽しめるようになっています。売店で私はある薔薇に引き寄せられました。私のバルコニーで健気に咲いていたのに、消えてしまった懐かしい薔薇に面影がそっくりでした。タグがついていませんし、係員も知りませんでした。調べて貰って、「きっと、そう！」と信じて、求めました。それは「スーベニール・ドゥ・アンネ・フランク」です。

メルヘン街道を下る道すがら、偉容な山並みの素晴らしさ、大気の澄み切った清々しさ、道々に咲いている草花の色鮮やかさに目を奪われ続けました。茅野を抜け、諏訪へ入った途端、山爺は突然土手に向かって車を走らせました。そこは一方通行とはいえ、幅わずか2mの平川の堤防でした。土手の道をかなりのスピードで、ほぼ直線とはいえ、どんどん進むのです。3kmくらいでしょうか、ヒーヒー言いながらついて行って到着したのは諏訪湖畔の高島城でした。



こじんまりした城跡に、高さ20mの復興された天守閣がそびえていました。高島藩(1601-1868)は2万7千石とのことですから、本当に可愛らしい領地といえますが、諏訪湖の畔にあり、山間の中央には遠く富士山が望めるのですから、ロケーションは抜群です。天守閣には領主の書、武具などの昔をしのぶ資料が展示されていました。



葛飾北斎(1760-1849)の「富嶽三十六景信州諏訪湖」の絵(複製)も展示されていました。北斎ならではの大胆な構図で、富士山の真下に高島城が描かれています。

諏訪湖は街に囲まれ、市民に親しまれる、憩いの場のような雰囲気だと感じました。最後の目的地は諏訪湖の畔の「北澤美術館」です。ちょうど「アール・ヌーヴォーのガラス展『バラに捧ぐ』」の特別展を開催していました。エミール・ガレ(1846-1904)は故郷のロレーヌ地方に咲く薔薇、オールド・



ローズ・ガリカ系をテーマにいくつものガラス工芸品を制作しているそうです。普仏戦争で奪われた故郷の美しい姿を、愛を込めて描いたのでしょう。ガラス工芸は輝く色を光や陰影によって、よりロマンチックに、幻想的に表現できるのでしょう。夢見るような気持ちにさせられました。ガレだけではなく、ドーム兄弟、ダームス、リックなどの作品も多数ありました。私はリックの作品も大好きで、アール・デコのほうが落ち着いた気分で楽しめます。



山爺夫妻のおかげで旅を堪能しました。夫は快気祝いを、私は喜寿祝いをさせていただきました。山々にも別れを告げて、次を夢見つつ、帰路につきました。